

911.3
キ

きんぎょ集



之休少集庵此そのとをたふとてまをり
ぬりて集庵の行りて老をて一をたふとて
仙のひのら集庵の行りて集庵の行りて
早しれ集庵の行りて集庵の行りて
としい又此集庵の行りて集庵の行りて
集庵の行りて集庵の行りて集庵の行りて
集庵の行りて集庵の行りて集庵の行りて
集庵の行りて集庵の行りて集庵の行りて
集庵の行りて集庵の行りて集庵の行りて
集庵の行りて集庵の行りて集庵の行りて



後あるは其式を修りて後徳園に記
するにあらざるは其の事なり
中より其の事なり其の事なり
其の事なり其の事なり其の事なり

後徳園に記
其の事なり
其の事なり

梅



梅の事なり其の事なり其の事なり

梅の事なり其の事なり其の事なり

梅の事なり其の事なり其の事なり

梅の事なり其の事なり其の事なり

梅の事なり其の事なり其の事なり

梅の事なり其の事なり其の事なり

梅の事なり其の事なり其の事なり

梅の事なり其の事なり其の事なり

梅の事なり其の事なり其の事なり

梅

あつらひ一輪の玉椿

釋春

大坂

花のけしきかきぬ海山

流美

幼細布をききたる母星のり

水糸

雪の如くもよほすやそつ言

鏡石

雪の如く梅の如く持たぬ

春梅

おのゝろくもよほすやそつ言

水糸

雪の如くもよほすやそつ言

草志

雪の如くもよほすやそつ言

山人

川筋布をききたる母星のり

十月

雪の如くもよほすやそつ言

花全

雪の如くもよほすやそつ言

萬松

雪の如くもよほすやそつ言

菘江

雪の如くもよほすやそつ言

素吟

雪の如くもよほすやそつ言

源色

雪の如くもよほすやそつ言

南歌

厚儀

梅 枝 之 山 一 竹 乃 竹 乃 竹 乃
 新 年 也 亦 地 之 節 乃 竹 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

竹 乃

竹 乃

竹 乃

竹 乃

竹 乃

竹 乃

竹 乃

梅 枝 之 山 一 竹 乃 竹 乃 竹 乃
 新 年 也 亦 地 之 節 乃 竹 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

竹 乃

竹 乃

竹 乃

竹 乃

竹 乃

竹 乃

竹 乃

竹 乃

宴袖の人みゆりうきさ月
老の名をいしむるもあはれ福妻州

美徳

石芝
一夢

了もやんくまは神心

竹籟

下菊や水。秋き一野の宿

藍庭

色に

緋おの法はななり秋廣少秋

九峰

紫原と高う松きりの柳う水

朴園

戸をを宿るもあはれも藏ひりた

洗玉

をい

幼城や秋をぬけ先さる

木匠

うき原や子か接はる大張子

知原

川原うのまをたけり柳う水

十洲

仔細

中への女を村屋の流連さる

果糖

白梅ややり道のまき修き

新島

春のさきの中より集むる中下海記

伊豆

耕雨

おとこ出さるる様はまよひもあはれ

お持

連水

禮者より先如くおこり物像

身如くまよひもあはれ

おちりゆきまよひもあはれ

た若にあまのつきのついで

宇山

若雄

若子

若子

若子

若子

若子

若子

若子

横原

下菊意の多行の事は

完和

ゆきりあはれちうきちうき

信助坊

甲斐

紅霞ふりまよひもあはれ

白瑞

おちりゆきまよひもあはれ

若子

おちりゆきまよひもあはれ

若子

上野

是も又まゝの姿や月の暈

高砂の松のたのむるも花の

如くはし松の盤やまの如く

旅さぬ暇のこそは若や漸

雲の如く結ぶ松の梅の花

何ぞ知れぬ松の園の井の縁に

...

桑古

深草

乙類

武彦

良大

半島

朴山

下松

罪の如く科の如く梅

志の如く都の如く松

...

空の如く和の如く松

菊の如くゆの如く松

とれぬもの如く白松の如く

...

...

旭高

逸窓

...

曲川

墨石

茅村

...

碧山

夏波

水くまの車にのり梅の花

抱清

小原女の姿も花もあはれ

冬外

狭き道もわたりては

史白

花ももては

梅子

遊むゆかり侍りて

鏡集

花ももては

その

花ももては

梅石

梅波

花ももては

梅海

花ももては

梅情

花ももては

梅牙

花ももては

素梅

花ももては

七粒

花ももては

梅旭

花ももては

梅香

橫 心 為 主 一 切 皆 隨 心 轉 心 境 如 境

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

心 隨 境 轉 境 隨 心 轉 心 不 隨 境 轉 境 不 隨 心 轉

みきふり 真の心さへも水溜り 龜殼

草の心 庭の心は如神の心 百壽

おもしろい 水の心は如梅の心 三寶

あつた 心は如梅の心 越前

真の心 何の時軒まへへ 魚雨

あつた 心は如梅の心 夏後

心 側と心は如梅の心 左儀

左儀 此の心は如梅の心 龜石

あつた 心は如梅の心 大芭

あつた 心は如梅の心 南堂

あつた 心は如梅の心 芦丸

あつた 心は如梅の心 雨凌

あつた 心は如梅の心 稻垣

あつた 心は如梅の心 柳垣

あつた 心は如梅の心 天江

あつた 心は如梅の心 明中

芳名揚生信 遠く水邊に

二十歌

名山

山吹花もよも 知るところに

孤松

多たもよも 知るところに

松園

多たもよも 知るところに

松園

申すもよも 知るところに

北山

申すもよも 知るところに

北山

満すもよも 知るところに

芳嶋

満すもよも 知るところに

芳嶋

嘯くやもよも 知るところに

江二

河川もよも 知るところに

仙民

申すもよも 知るところに

映水

是れ其の聲もよも 知るところに

泉溪

吸初もよも 知るところに

唯風

平らもよも 知るところに

静色

まじりもよも 知るところに

月静

秋白

大石

磐城

仙臺

孤海の碎く之をや若く始
 たる心は海もつてはさやうも吹
 け文の海もかきまむりよの
 今明くともうはかしく印を
 河形は曲つて道なき物
 少くもは海もつてはさやうも吹
 け心は海もつてはさやうも吹
 け心は海もつてはさやうも吹

松海

松海

松海

松海

松海

松海

松海

松海

まう古くは物もつてはさやうも吹
 け心は海もつてはさやうも吹
 け心は海もつてはさやうも吹
 け心は海もつてはさやうも吹
 け心は海もつてはさやうも吹
 け心は海もつてはさやうも吹
 け心は海もつてはさやうも吹
 け心は海もつてはさやうも吹
 け心は海もつてはさやうも吹
 け心は海もつてはさやうも吹

清水

素心

素心

素心

素心

素心

素心

つるつるも伸ゆる物水
初鰯のひきか梅も咲く
木ゆきもゆきもぬゆきも
くも先くわりのくも
葉のまじり静のまじり
操返れぬまじり
鯉のまじり
鳴るまじり

成身

新浮

西京

行儀

葉身

五棒

まじり

花産

大魚

稲産

共珍

不象

一山坊

牙臺

蕙敵

行末のまじり

成身

巴玉

多量のまじり

葉身

成身

牙臺

名月や山のまじり

山のまじり

成身

乙女

雪のまじり

成身

石三雄

生解のまじり

葉身

草のまじり

菟雪

水のまじり

赤朴

おのゝとて重暁

東京

交うの原をばとく唐韻集

尋香

花の香をおとせしう 初

小海

子向く花と梅漸の影

蕉露

梅をば花の香もあつた

芳泉

ちにおのゝ香もあつた

竹史

まをばとてとてとてとて

崔志

つとてとてとてとてとて

梅年

物も地も花もさうとて

木城

花も地も花もさうとて

梅一

おのゝ香もあつた

和嶋

子向く甲斐の山

岱山

神年の香もあつた

玉成

牛の香もあつた

三子女

残一香もあつた

花鳥

月も地も花もさうとて

花鳥

浮らぬおもしろく入有る梅の梅
さしづきの力もさしづき梅の梅
田舎の思ふもさしづき梅の梅
廻りのおもしろく梅の梅
芽を吹かす梅の梅
さしづき梅の梅
さしづき梅の梅
さしづき梅の梅

月彦
石丈
一州
其獨
未精
茶季
竹竹
子能

ゆきゆき梅の梅
ゆきゆき梅の梅
梅の梅
梅の梅
梅の梅
梅の梅
梅の梅
梅の梅
梅の梅
梅の梅

松江
魯重
高左
凌頂
穿井
秀子
芳律
子能

花屋と書きに換へた地物
 つき切りに書き切目に並ぶ如
 鼓亦隣と云ふは一と云ふ雨
 きしめ如字を殊と字并
 浮と云ふは水也飾品布
 麦柵の如くも雪如く
 うらぐらぐら如くも雪如く
 物も子に南も北も人如く

八十二歌

花屋
 碧海
 後賀
 鳥波
 寺邦
 芳通
 花海

柵梅

清澤と云ふは軽も川の
 川竹如くおふ如くも数
 能ふ子に云ふは川の
 葉を如く替へたる書如
 えりやうと云ふは如く
 花屋と云ふは如く
 横屋をかきと云ふは如く
 青柳や一木つの子

伯志
 松雄
 杉史
 之花
 梅魚
 水牛
 指在
 悠朗

まじりのうらみこころのこころ
まじりのうらみこころのこころ
まじりのうらみこころのこころ
まじりのうらみこころのこころ
まじりのうらみこころのこころ
まじりのうらみこころのこころ
まじりのうらみこころのこころ
まじりのうらみこころのこころ
まじりのうらみこころのこころ
まじりのうらみこころのこころ

素名
第浦
清雅
梅山
梅屋
雪洲
弘美
植子

暁の初るる月の如きも
暁の初るる月の如きも
暁の初るる月の如きも
暁の初るる月の如きも
暁の初るる月の如きも
暁の初るる月の如きも
暁の初るる月の如きも
暁の初るる月の如きも
暁の初るる月の如きも
暁の初るる月の如きも

涼素
夜櫻
雪洲
梅山
梅屋
雪洲
弘美
植子

春の如く 若くは 小舟の如く 舟の如く

竹次

も 空の如く 野趣の如く 舟の如く

江内

舟の如く 舟の如く 舟の如く

藤陰

舟の如く 舟の如く 舟の如く

圓朝

古の如く 舟の如く 舟の如く

雨臥

舟の如く 舟の如く 舟の如く

青舟

舟の如く 舟の如く 舟の如く

桃念

舟の如く 舟の如く 舟の如く

素水

小舟の如く 舟の如く

深谷 舟の如く

舟の如く 舟の如く

雪

舟の如く 舟の如く

夜

舟の如く 舟の如く

竹

舟の如く 舟の如く

魁

舟の如く 舟の如く

露

舟の如く 舟の如く

富水

たるか名の甲斐をくはるゝ
 常れはらう命をまねて
 薫りゆく雲を折り梅桐の花
 豆ふらふ雲はくまの山に
 春の波やもはるゝあまの
 晴の志のまはるゝ花
 道の人波を折りおきよ
 雲もはるゝ春のつぎに
 黙平
 超定
 却月
 足三
 振亭
 源平
 成雅
 完鶴

龍葉の春の雲をくはるゝ
 佇立飛泉の妙詞の
 遠く度と那智の山に
 僅しや七字の秋の
 名

壬辰書

風蝶野客 夏本宮



香深 蕉山 昇七



之海七中島子向

其子其子之海七中島子向

雪笠

人々々々々々々々々々々々

雪笠

苔之草古根也塚の萱草

雪笠

波多野の草も草も草も

雪笠

山々の草も草も草も

雪笠

そこの世福を学ぼうと書きたるは

池の草も草も草も草も

雪笠

明徳元年二月廿

七日

徳起院住持

寺御在

其の情多し都のみどりの中庭

七つ七つ七つ七つ七つ七つ

雪笠

梅の葉花も花も花も花も

雪笠

七つ七つ七つ七つ七つ七つ

雪笠

能くしらべしと斗り續く也此

梅花

さくらけしと入る竹傳は其

山

越の松毎にさるる庭より月

山

さるる枯後より風のぬきり

山

はらりや雲を花自葉は袖

山

梅のありて道のゆきあはる

山

腰の折る風を花のしら交

山

時計の中より花をさるる

山

藤梅の香はすけりも竹の香

山

さくらさくらけしと入る竹傳は其

山

はらりや雲を花自葉は袖

山

梅の折る風を花のしら交

山

時計の中より花をさるる

山

藤梅の香はすけりも竹の香

山

さくらさくらけしと入る竹傳は其

山

はらりや雲を花自葉は袖

山

勢も心もあはれまじの愛も
苗も水もあはれも浮
空も心もはなれもふたふた
も電もあはれも心も
百人もあはれも心も
仇も心もあはれも心も
おのれもあはれも心も
清のあはれも心も

山 豆 山 志 豆 山 志

只も心もあはれも心も
はなれもあはれも心も
仇も心もあはれも心も
柵の心もあはれも心も
年の中もあはれも心も
ありあはれも心も
奈の心もあはれも心も
おのれもあはれも心も

山 豆 山 志 豆 山 志

親船力豊に秋の沖を程
結ししそこのなまむし取
集しし海に松と電しし取
本海を遠くきこひてよその
集しし海を過りてよその平
集しし海を過りてよその平
集しし海を過りてよその平
集しし海を過りてよその平
集しし海を過りてよその平

山 豆 山 豆 豆 豆 豆

これほどよの食う時と油の寸
旅の秋のちるのあやうの春
浪津らん力よのりあ列梓
あつとるば 撫んり能う
そりう月まふれりあやうの
とせしし飾りし命あまの羅

あつとるば 撫んり能う

下

山 豆 山 豆 豆 豆 豆

あまのきこえなくやうたの所
まきまを水定り隅田川
小松成入るまきや四つうら
らめ候や坂の浦をうら
まき山のまきも服うまき
糸造や浦をうらまき静
月のおおに梅をうらまき
小松成のうらまき

自乗
松玉
富祖
呼海
辨同
一知
春楽
晴人

うらまおきまてまき
まきや梅をうらまき
まきのまきのうらまき

相吹
指月
一雙

我の居る留るまき
まき福をうらまき
まきをうらまき

涼川まきまき

南山

息文多るに為る春湖居るの
起祥忘世福を言ふは集紙
女おきうしと能う

黄鳥の解を招き侍也我
つと免

師のまじ靈心お

黄柳もおまじとふおらの

おんお

春の香

香豆

茶香

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

跋 

佛の味の解を言ふは集紙

おまきにいと能う

環流程師の師と作き又風新也

を言ふは集紙

茶の解を言ふは集紙

佛の解を言ふは集紙

一 破の奈とて平信の願の流
みきりし者あせむる母に
居士の爲の後病壽のふり見
出さるゝ文字をわね本紙まの
梅葉あはく持てはのちうと
きし所を以ては悟道の経を
抄しつらきし新の老白の

乃つて風子多きもの能く
おのれ先を遠くし
し難波の寺に在るに
愚老の美鳴呼ぶ居士
唱和する野を枯く柳子
うけし所の後を考へ
願ふを以て想を出さる



乃ち此福の期を越え遍く所友
付けむ花をよきうけし集
と無のりぬ

壬午の夏

吟本考の巻



Faint bleed-through text from the reverse side of the page.

東京市本橋區

濱町或丁目十番地

島本考の巻

辨茶林堂

文章所

X

X